



Key To Me Seminar

家族や友人、同僚、上司、近所の人に至るまで、私たちを取り囲む人間関係には限りがありません。スレ違いやストレスが無く、お互いがお互いの刺激や支えとなり、満たし合える関係になるためには、相手を理解してコミュニケーションを円滑にすることが必要です。その「鍵」を提供するのが“Key To Me Seminar”です。

上司と部下、仕事の仲間、プロジェクトチームの人間関係、クライアントとの関係、そして家族(夫婦、親子、兄弟姉妹)etc…

『あの顧客はどうして耳を傾けてくれないのだろうか』
『悪い人ではないのだけれど、どうもあの人とは合わない』
『全く頭の固い連中だな、楽しくやろうよ仕事は！』 等々
こんなことを思った経験はないでしょうか？
これらはお互いの性格の違いによって
生まれるミスコミュニケーションの一例です。



人は生まれながらにして6つのパーソナリティタイプ(性格の要素)を持ち合わせています。これらのタイプの組み合わせにより、1人1人の個性が生み出されているのです。PCMでは、そんなご自身のパーソナリティタイプの構造を知ることができます。そして自分の特徴を知ること、自分自身を受け入れられるようになり、自分らしく生きていくことができるようになります。それだけでなく、相手のことも知ることができるようになります。自分を知り、相手を知ること、ミスコミュニケーションを回避し、良好なコミュニケーション、人間関係を構築していくことができるようになるのです。

PCMは、臨床心理学者・行動科学者であり、交流分析の権威でもあるテービー・ケーラー博士(Taibi Kahler, Ph.D.)によって提案されました。元々は臨床の場において心理療法に携わってきた博士が、即時診断・即時治療を目的に交流分析の理論を発展させたのが始まりでした。そして、NASA(アメリカ航空宇宙局)でコンサルタントを務める精神分析医テリー・マクガイヤ博士(Dr. Terry McGuire)に招かれ心理面接官となり、宇宙飛行士・宇宙ステーションスタッフの採用・配属、組織トレーニングにPCMプロフィールやコミュニケーション・プログラムが応用されています。欧米では、IBM、BMW、ロレアル、コダック等の大企業において人材育成や企業戦略に用いられています。またテービー・ケーラー博士は、ビル・クリントン氏の大統領選挙運動における演説文をチェックする“Psychodemographer”として活躍し、以来、クリントン(前)大統領の私的心理アドバイザーとなりました。